

令和4年度 第14回教育研究審議会議事概要

日 時 令和4年11月9日（水） 午後4時10分～午後6時

場 所 本部棟3階 大会議室

出席者 藤田英典学長、加藤敦子副学長(兼)語学教育センター長、田中昌弥副学長(兼)キャリア支援センター長、田中正樹事務局長、小林重雄理事、春日由香学長補佐、佐藤明浩学長補佐(兼)図書館長、加藤めぐみ学長補佐(兼)保健センター長、竹島達也研究科委員長、日向良和情報センター長(兼)共通教育センター長、新井仁入学センター長、廣田健教職支援センター長、北垣憲仁地域交流研究センター長、茂木秀昭国際交流センター長、野中潤国文学科長、三浦幸子英文学科長、佐藤裕比較文化学科長、原和久国際教育学科長、鳥原正敏学校教育学科長、高橋洋地域社会学科長、横瀬晴紀総務課長、小澤初美経営企画課長、久保田昌宏学生課長

1 開 会 藤田学長より挨拶

2 議 事

(1) 専任教員の採用（投開票）について（英文学科・英語学・応用言語学）

○投票の結果、信任多数により承認

〈投票結果〉○21 ×0 白0 計 21名 ※1名欠席

(2) 専任教員の採用（投開票）について（地域社会学科・国際経済論）

○投票の結果、信任多数により承認

〈投票結果〉○20 ×0 白1 計 21名 ※1名欠席

(3) 特任教員（Aタイプ）の採用について（学校教育学科・理科）

○委員から資料3に基づき説明。

→協議事項を修正した上で承認（2週間の閲覧期間を設け、令和4年12月7日投開票）。

(4) 非常勤講師の担当科目コマの提案（学校教育学科）

○委員から資料4に基づき説明。→提案どおり承認。

(5) 非常勤講師の担当科目コマの発議（学校教育学科）

○委員から資料5に基づき説明。→提案どおり承認。

(6) 都留文科大学文学専攻科（教育学専攻）の募集停止について

○学長から資料6に基づき説明。→提案どおり承認。

(7) 学修成果の把握可視化に伴う外部アセスメント試験の実施について

○委員Aから資料7-1から資料7-12に基づき説明。

(委員B)

どのくらいの大学が導入していて、可視化した後の改革についてどのように進めていくか。

(委員A)

450大学程度導入している。また、業者の方で分析を丁寧にしていただき、アフターケアは手厚く感じた。豊富な情報を把握しているため、活用していきたいと考えている。

(委員B)

仮にジェネラルテストが低かった場合にどのようにケアするのか。また、コンピテンシーの意味合いが良い意味を持っているのか。導入にも議論が必要だと感じる。その費用をかけるの

ならば、別のものを開発するか、そういうこともありうると思う。

(委員 A)

導入を今決めるのではなく、今は試験的に実施し、年度末にもう一度議論したい。このテストは多元的な評価の一つであって、生活態度調査など評価はほかの手法も必要となってくる。

(委員 C)

認証評価にある多元的な評価の一つとして実施するもので、改善報告書を 2025 年に提出する必要がある。その上で、理想的には独自に可視化する手法を開発するのが良いと思う。ただし、独自に開発するのは労力が非常にかかる。独自に労力をかけて開発するのか、外部にあるものをとりあえずしておいて、その分の労力を学生と向き合う方にかけるのか、なかなか難しい問題である。それらが今後の課題であると思う。

(学長)

世界的にもルーブリックなどを活用し評価を進めていることは確かで、認証評価でもこういったものを取り入れていることが評価に値するアウトカムとされている流れがある。いろいろ学生が実施しているものを一つ一つ集めて指標化していけば、それを積み上げて評価していけば複数の情報を組み合わせた多元的な評価に繋がると考える。この多元的とは大学生活でどういう活動をし、どういう学びをしたか、それを学生の満足度や自己肯定感に繋げるなど、ポートフォリオ形式ともう一方で、何らかの意識調査で測定し、資料化すれば認証評価も通ると考える。ただそれは、手間がかかるのは確かで、今回、2つの試験を実施してみて、例えば教員試験を受ける学生は一般教養などさまざまな試験の一つとして考えることも可能だと思える。意義ある使い方が可能であって、我々の授業や指導に活かし、学生の学びが質的に劣化することがないように、改善するような可能性を確認できれば今後進めていくのもありかと思える。この費用で質の改善に寄与するようなものであるのであれば、IR を作って自前で作成する手間は教員も事務職員もかかってくる。今このようなことを実施している、何年に導入する予定などと言語化出来れば認証評価も問題ないと思えるが、その部分も含めて自己点検・評価実行委員会で検討していただきたい。

→提案どおり承認。

(8) TISP 2023 Spring 受入交換留学生について

○委員から資料 8 に基づき説明。→提案どおり承認。

(9) 2023 年度前期 韓国外大、上海外大 受入留学生について

○委員から資料 9 に基づき説明。→提案どおり承認。

(10) 令和 5 年度開講科目について (共通専門・国文・学校教育)

○委員から資料 10 に基づき説明。→提案どおり承認。

(11) 令和 5 年度非常勤講師担当科目について (継続 第 1 回)

○委員から資料 11 に基づき説明。→提案どおり承認。

(12) 専任教員の採用 (投開票) について (国文学科・古典文学)

○投票の結果、信任多数により承認

〈投票結果〉○20 ×0 白0 計 20 名 ※2 名欠席

(13) 非常勤講師の担当科目コマの発議・提案 (国文学科)

○委員から資料 13 に基づき説明。→協議事項を修正した上で承認。

(14) 非常勤講師の担当科目コマの発議（国文学科）

○委員から資料 14 に基づき説明。→提案どおり承認。

3 その他

○委員から公立大学法人都留文科大学令和 4 事業年度計画の業務の実績（9 月末時点）の事前確認について発言

（委員）

令和 4 事業年度の業務実績の 9 月末現在の達成度等の見込みがまとまったため、メールにて周知するので、事前の確認をお願いしたい。今後の予定としては、常任理事会や教育研究審議会で議論していただき、12 月に第 2 回の定期監査と業務監査を行うので、何かあったら連絡いただきたい。

4 閉 会

以上